今日の主の回復の主要な項目の極めて重要な点（1）第２週 - 三一の神

鳥瞰	神は唯一無二です。この唯一の神は三一であり、神聖な三一の三者は永遠に同時同存し、相互内在しています。　「本質上の三一」は、三一の神の本質をさしており、それは彼の存在のためです。「エコノミー上の三一」は、三一の神の計画を指しており、それは彼の行動のためです。神聖な三一の三者はみな、信者であるわたしたちの中に住んでいます。神聖な三一は神の分与のためです。今日、わたしたちは三一の神を経験し享受することによって彼を認識します。	
	真理要点	経験適用
1日	１．三一の神と神聖な三一の間には何か違いがありますか？ ２．三一の神の三者が同時同存していることを説明して下さい。	１．三一の神はおもに神ご自身を指しており、神聖な三一はおもに神が三一であることを指しており、それは神格の主要な属性です。三一の神の神聖な分与と言うより、神聖な三一の神聖な分与と言うほうが正確です。三一の神は神のパースンを指していますが、神聖な三一は神格の主要な属性を指しています。 ２．ヨハネによる福音書第 14 章 16 節から 17 節において子は、父が霊を遣わしてくださるよう父に祈ると言っておられます。エペソ人への手紙第 3 章 14 節から 17 節でパウロは、父が力をもって、彼の霊を通して、わたしたちを内なる人の中へと増強し、キリストがわたしたちの心の中に、ご自身のホームを造ることができるようにと祈っています。コリント人への第二の手紙第 13 章 14 節は、子なるキリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の交わりについて語っており、それは神聖な三一の三者が同時同存していることを示しています。
2日	１．父、子、霊の関係とこれが相互内在していることを説明して下さい。 ２．神聖な三一の三者の間には区別はありますが、分離が無いことを説明して下さい。	１．父は子と霊の中に存在しています。子は父と霊の中に存在しています。霊は父と子の中に存在しています。神格の三者の間のこの相互の内住は、「相互内在」と呼ばれています。ヨハネによる福音書第 14 章 10 節から 11 節には、父と子の同時同存だけでなく、相互内在もあります。 ２．父は子と区別があり、子は霊と区別があり、霊は子と父と区別があります。しかしわたしたちは、彼らは分離されていると言うことはできません。なぜなら、彼らは相互内在しているからです。すなわち、彼らは互いの内側に住み合っているからです。神格の三者は同時同存において区別がありますが、相互内在が三者を一にします。
3日	１．イザヤ書第 9 章 6 節において、どのようにして子が父でもあることを証明していますか？ ２．本質上の三一とエコノミー上の三一の違いについて説明して下さい。	１．「大能の神」は「みどりご」と一致し、「永遠の父」は「男の子」と一致します。そうです、彼はみどりごですが、大能の神です。ベツレヘムの飼葉桶に生まれたみどりごは、大能の神です。みどりごと大能の神は一であるので、男の子と永遠の父も一です。男の子は永遠の父です。 ２．本質上、神は一です。しかしエコノミー上、神は三です。すなわち、父、子、霊です。神のご計画、神の行政上の案配、神のエコノミーの中で、父は計画し、子は成就し、その霊は、父の計画にしたがって子が成就したものを適用します。“本質上の三一は、三一の神の本質を指しており、それは彼の存在のためです。エコノミー上の三一は、彼のご計画を指しており、それは彼の行動のためです。
4日	１．聖書を引用して、父、子、霊がすべてわたしたちの中にいることを説明してください。 ２．神聖なエコノミーの成就が神聖な三一の神聖な分与によることを説明してください。	１．御父はわたしたちの中におられます。エペソ人への手紙第 4 章 6 節は言います、「すべてのものの神また父は一つ、この方は……すべての中におられるのです」。御子はわたしたちの中におられます。コロサイ人への手紙第 1 章 27 節は、「あなたがたの内にいますキリスト」と言っています。　ヨハネによる福音書第 14 章 17 節は、「実際の霊……は……あなたがたの中におられるようになる」と言っています。 ２．神は神聖であり、神は三一でもあります。神が三一であるのは、ご自身をわたしたちの中へと分与するための各段階を完成するためです。神はご自身をわたしたちの中へと分与するために、三つの段階を経られました。すなわち、御父の選びとあらかじめ定めること、御子の贖い、その霊の証印です。この三つの段階は神の神聖な分与のためです。
5日	１．聖書を根拠に、父が源泉、源であり、子が泉であることを説明してください。 ２．敵の狡猾さとは何ですか。	１．エレミヤ書第 2 章 13 節で神はご自身のことを生ける水の源泉と言っておられます。ヨハネによる福音書第 4 章 14 節でキリストは水の泉であり、信者たちの中で湧き上がって永遠の命へと至ります。また啓示録第 22 章 1 節で、その霊は命の水の流れ、また命の水の川です。父は源泉、源であり、子は泉です 。この泉は一つの流れを生み出し、それは三一の神の訪れ、適用としてのその霊です。 ２．　一つはキリストがすべてを含む方だということを否定することです。もう一つは三一の神がわたしたちの経験と享受のために主観的であることを否定することです。多くのクリスチャンは神聖な三一を単に宗教のための客観的な教理として提示しますが、三一の神の経験を全く持っていません。神はわたしたちにとって主観的であり、日ごと、時間ごとに彼を経験し享受することが出来ます。
6日	１．ヨハネの手紙において、わたしたちが享受し経験する神の中心点は何でしょうか？ ２．ヨハネの手紙の三つの受取人から、どのようにして神聖な三一を見ることが出来ますか？	１．手紙が書かれた時、キリストのパースンに関するある異端が忍び込んでいたという事実と関係があります。これらの異端的な教えの影響は、三一の神に対する聖徒たちの享受を消してしまうことでした。この享受には中心点があります。それは神が人と成ったということ、そしてこの神・人が贖いを完成して、復活の中で命を与える霊と成ったということです。 ２．　まず、彼はすべての信者たちを彼の小さい子供たちと呼び、彼らの罪は主の御名のゆえに赦されていました。それから、ヨハネは続けて父たちに対して、　これらの信者たちは神聖な油塗りを通して、初めからおられる方を知っています。　若者たちにたいして、彼らは邪悪なものに打ち勝っています。さらに、彼らは強く、神の言葉が彼らの中に住んでいます。
まとめ	神は唯一無二であり、また三一（父子霊）です。神聖な三一の三者は同時同存し、お互いに区別があります。これをエコノミー上の三一と呼びます。神聖な三一の三者は相互内在し、三者は分けることができません。これを本質上の三一と呼びます。神聖な三一の真理は客観的な道理ではなく、文字の研究でもありません。これはわたしたちが主観的に経験し享受する為です。そのために「神が人、すなわち神・人と成ったということ、そしてこの神・人が贖いを完成して、復活の中で命を与える霊と成ったということ」を認識する必要があります。このことを通して、わたしたちは神聖な分与にあずかることができます。	